

<翻訳>

## 国内標準分類法の発展と維持：韓国十進分類法の経験から

Dong-Geun Oh 著

志保田務，家禰淳一訳；孫誌銜協力

原タイトル：Developing and Maintaining a National Classification System, Experience from *Korean Decimal Classification* / Dong-Geun Oh : Knowledge Organization 39 (2012), no.2 (原論文の Knowledge Organization 事務局到着：2011年8月9日，受理：2011年9月29日)

著者：Dong-Geun Oh (呉東根)

啓明大学校，韓国(南朝鮮)大邱 704-701 <odroot@kmu.ac.kr>

Ph. D., MLIS, MBA, 啓明大学校図書館情報学部教授，韓国図書館情報学会前副会長・編集委員長。現，韓国図書館協会 [第6版] 分類委員長。韓国図書館賞受賞 2001。最優秀研究者賞受賞 2002 (啓明大学校)。アカデミー賞 (韓国図書館情報学会) 受賞 2009。ホームページ：http://odroot.kmu.ac.kr/indexing.html

**抄録** 韓国十進分類法 (Korean Decimal Classification ; KDC) について述べる。KDC は韓国図書館協会によって公式的に発行・維持されている標準分類法である。本稿はまず南朝鮮 [以下、韓国：訳者] における近代分類法の略史を跡付け、KDC に多様な特徴と問題点を検討する。詳細においては、社会的背景に照らし、韓国図書館におけるその使用状況、他の分類システムから受けた影響、概説部と主要表の特徴、その新版 (第5版) を包含する。特に、KDC の将来の発展をめざし、いずれもの国における、それぞれの国内標準分類法の展開・維持に役立つよう、韓国における経験を主に指摘と提案を行う。

### 1 序文

韓国十進分類法 (KDC) は韓国図書館協会 (KLA) によって公的に発行・維持される標準分類法であり、韓国の大多数の公共図書館と学校図書館、少なからぬ短大図書館、大学図書館で使用されてきた。KDC は書誌情報調整上最重要で、影響の大きいツールの一つである。

1945年、帝国時代の日本支配からの国家的独立は、以降、図書館を含む韓国社会のほとんど全領域に影響を与えた。1950年代の朝鮮戦争は、これと異なる大きな変化を韓国社会にもたらした。KDC は韓国全域に起きた戦後復興の気運とともに出発したのである。

### 2 文献レビュー

知識と情報の巨大な成長と文献資料の増加の結果に伴い、それらをコントロールし管理することへの願望は伸張していった。これをコントロールする伝統的な手法の一つは、それらを系統的に組織化することであった。分類法は、カオスと非秩序のこの世界において人々に秩序の感覚を与える非常に開発的なツールである。書誌情報の世界においては、膨大な種類の分類法が開発されてきた。多くの論文が特殊なシステムの特徴を報じており、様々な種類の出版物や特殊な領域

の利用者のために標準分類表を試し、国内標準から国際システムへ変換するための興味深い工程を報じている。たとえば、Zhang (2003) は中国文献に対して分類の一般的観点を分析する。Anyanwu (1994) はナイジェリアの官公出版物関係で韓国標準分類法を調整する案を示唆している。Comaromi (1985) と Satija は DDC のインド適用版を紹介している。そして Svanberg (2009) は、スウェーデンの国内システム SAB の DDC へ変換に関して概括的な問題点と合理的説明を示している。

目を転じ韓国朝鮮の書誌コントロールの状況を眺めると、ごく少数の論文が、韓国における書誌コントロールについて国際誌に発表されている。Chung (2007) は韓国の全国書誌 (Korean National Bibliography) について概観し、Oh (1992, 1995) は、韓国機械可読目録 (Korean MARC) についてアジアの他の国との比較を通じ分析した。特に分類において、Oh (2001) と Yeo は DDC の宗教部門の分類項目について、韓国の実状に立ち、国々の宗教上の相違を容れるという意見を提示している。

韓国十進分類法に関する論文、文献がことに多い。Oh (2002, 2009), Bae, Yeo はそのシステムの様々な観点を紹介、分析した 2 点の講義用テキストを出し、最近ではその第 4 版、第 5 版に論点を定めている。Kim (2009) は KDC の第 5 版内の問題点を分析し、その訂正を勧めている。そうしたことは Yeo (2008)、Lee, Oh を初め他の著者の発言もみられる。Yeo, (2008)、Park, Hwang, Oh らは各特定の主題分野において行った共同研究をもとに、第 4 版の改訂へのアイデアを示した。Yeon-Rye Kim (2009) と Kwak (2009) は土木工学部門、歴史部門について分析した。

ここに、KDC の変革について社会的背景を含む、韓国内図書館におけるその使用状況、概括部と表における類 (一次分類) に関する他の分類表からの影響、新版の特異点に、特徴と問題点に視点を見定める。

### 3 韓国近代分類法略史

日本の朝鮮占領期 (1910-1945)、主な近代図書館は日本の分類システムの影響を受け、様々な分類システムを使用していた。1920 年の策定とされる朝鮮総督府鉄道局鉄道図書館分類法は韓国における最初の近代分類法として知られている (Yeo 2006, 19-28)。1945 年日本からの独立は韓国の図書館員たちに重要なターニング・ポイントをもたらし、分類法や目録規則を含む書誌コントロールおよび目録法のための自国、自身のツールを開発するというモチベーションを与えた。主導的大図書館とその図書館スタッフが、当時自国、韓国朝鮮の他の図書館用の新システム構築に大きな関心をもったのは自然のことであった。

#### 3.1 Park による韓国十進分類法の繁栄と衰退

Bong-Suk Park による韓国十進分類法 (KDCP [Korean Decimal Classification, Park], 1947)、Jae Chang Koh による Han-Un 十進分類法 (1954)、Kuk-Yeon 十進分類法 (1958) はその時期の韓国で使用された 3 大システムであった。とりわけ KDCP は多くの韓国図書館によって 1950 年代に広く使用された。

KDCP の編者である Bong-Suk Park はパイオニアであり、近代韓国図書館界において最も影響力をもった人だった (Lee and Jo, 2006)。彼はアメリカ図書館界における Melvil Dewey、インド図書館界における S. R. Ranganathan に比肩する重要な役割を果たし韓国図書館界に貢献した (Oh 2000, 9-19)。Park は韓国 [南朝鮮] 国立図書館で副館長を務めていた。彼は国立図書館が教授陣を担った当時韓国で唯一図書館情報学に関する公認の教育機関、国立図書館学校で生徒たちを教えた。彼は図書館協会の組織化に準備委員長として重要な役割を果たした。彼はまた

KDCP、東洋書を記録するための目録規則を含む重篤な書誌的ツールを策定した（1948）。

KDCP は国立図書館から発行され、図書館学校で教えられ、1950 年代初期において最も広く使われる巨大分類法システムとなった。Park の図書館や図書館学校での教育への熱中は、このシステムの国内における普及に貢献した。この分類法は、DDC 同様、アルファベット数字を記号として用いた。その表は主クラスを 3 種に分けた。人文科学（1 類 哲学・宗教；3 類 言語・文学；4 類 美術・舞台芸術）、社会科学（2 類 歴史・地理、5 類 社会・教育、6 類 政治学・経済学）、科学・技術（7 類 自然科学・医学、8 類 工学・技術、9 類 産業・搬送）。総記は DDC 他の分類表同様に 0 類に位置づけられる。DDC では、言語と文学は、400 と 700 に分けられるが、このシステムでは、一つの類に纏められる。

KDCP は、最大 4 次の記号段階に限られる。記号法における簡潔度の観点から見て、また当時韓国図書館の状況に照らせば、これらうなずける選択だった。だがしかし、これは表現力と記号法の親切さに限界をもたらす結果となった。つまり多くの助記法の不採用が記号法の展開を不可能とし、新たに出現する領域を総表のなかに盛り込むことを難しくしていた。こうした特徴は、大図書館から相当の不平を呼ぶ結果となった。さらに悪いことに、編者 Bong-Suk Park は不幸にも朝鮮戦争の間に行方不明となってしまった。一説には、自身の自由意志で北朝鮮へ行ってしまった？と言われている。このこと他の理由もあって、そのシステムは有効性のある期間のうちに改訂されなくなっていた。キーパーソンの喪失とか戦争後のマッカーシズムの広がりから KDCP の継続的な発展を中断させ、このシステムの使用は、1950 年代の末期には劇的に減退した。

韓国図書館界は 1957 年に延世大学校に正式な最初の図書館教育が開始したこともあり、Dewey Decimal Classification (DDC) への関心が徐々に深まって行った。延世大学校では、ジョージ・ピーボディ・カレッジからの教授会メンバーが、DDC を紹介し主たる分類システムとして教えた。それが韓国図書館におけるシステムとして広がる結果をもたらした。しかしながら当時、韓国の図書館員たちは、DDC を分類作業での実用に困難を感じていた。DDC は韓国の蔵書に対する書誌情報の分析に向いていなかった。

### 3.2 韓国十進分類法 (KDC) の出現と実用

1955 年に再建された韓国図書館協会は、韓国図書館界から新しい分類システムを進展させるよう継続的に要求を受けていた。1964 年、韓国十進分類法 (KDC) の初版が分類委員会によって一年を越える共同作業の結実として発行された。これは継続的に改訂され、2 部構成の最新 4 版が 2009 年発行された。表 1 は、KDC の略史を要約的に示したものである。

版	出版年	ページ数	編纂主幹
1	1964	642	Hye-Bong Chun
2	1966	686	Hye-Bong Chun
3	1980	1,027	Byung-Su Lee
4	1996	1,516	Ki-Won Kwon
5	2009	1,529	Tae-Woo Nam
[6	2013	1,719	Dong-Geun Oh

表 1 KDC 略史 [6 の各項目は訳者による補記

最近の統計は、韓国の公共図書館の多くが KDC の使用を続けている事実を示している（表 2

参照)。しかし一定割合の大学図書館、短大図書館はKDCの使用から徐々に、継続的に退行している。しかし大部分は資料分類にまだこれを使用している（表3参照）<sup>2)</sup>。

分類法 ↓ 資料	1986年		2009年	
	東洋書の分類	西洋書の分類	東洋書	西洋書
KDC	97.7% (84)	80.3% (49)	99.1% (541)	97.8% (534)
DDC	0% (0)	8.2% (5)	0.2% (1)	1.5% (8)
以外の分類表	2.3% (2)	11.5% (7)	0.7% (4)	0.7% (4)
調査館数合計	86館	61館	546館	[不記載 note <sup>2)</sup> 参照]

表2 公共図書館におけるKDC使用状況の推移

出典: 下記文献からの翻案: Korean Educational Development Institute (KEDI) (1987). *A study for the establishment and activation of library system*. Seoul: The Institute, p. 62; この統計は、韓国図書館協会 (KLA) の私的委員会を通じて2010年12月1日に入手したものである。このオリジナル・データは、KLAが全国レベルの図書館データとして703の公共図書館の参加で行った調査であるが、参加館の多くは、自館が使用している分類規程に関する質問に答えていない。

表2、表3に示したように、KDCは韓国公共図書館においては、東洋書、西洋書いずれに関しても最も影響度の高い分類法システムである。大学図書館、短大図書館においては、5分の2以上が東洋書に対して用い、約4分の1が西洋書に対して用いている。

分類法	1986		2001		2007		2010	
	東洋書	西洋書	東洋書	西洋書	東洋書	西洋書	東洋書	西洋書
KDC	57.1%	45.9%	45.3%	26.0%	43.1%	23.3%	43.2%	23.7%
	(56)	(45)	(68)	(39)	(72)	(39)	(73)	(40)
DDC	40.8%	51.0%	52.0%	71.3%	54.5%	74.3%	54.4%	73.4%
	(40)	(50)	(78)	(107)	(91)	(124)	(92)	(124)
Others	2.0%	3.0%	2.7%	2.7%	2.4%	2.4%	2.4%	2.9%
	(2)	(3)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(5)
調査図書館総数	98館	150館	167館	169館				

表3 大学・短大図書館におけるKDCの使用度の推移

出典: 下記文献からの翻案: \*Korean Educational Development Institute (KEDI) (1987). *A study for the establishment and activation of library system*. Seoul: The Institute, p. 62; \*\*Oh, Dong-Geun [& etc.] (2002) *Understanding Korean Decimal Classification*, Daegu: Taeil Press, p.26; , Oh, Dong-Geun [& etc.] (2009) *Understanding Korean Decimal Classification, 5th edition*, Daegu: Taeil Press, p.29; \*\*\*\*下記機関の二つのホームページから各図書館に関する生データから直接に分析したデータ。すなわち、国立大学・短大図書館協議会 (<http://www.knula.or.kr/index.php>) 及び韓国私立大学図書館協会 (<http://www.kpula.or.kr.index.php>)

公式の統計ではないが、学校図書館の多くが同様にこれを使用している。韓国におけるこうした状況は、このあと一定の時期にわたり、継続すると考えられる。

#### 4 韓国十進分類法の原則的性質の分析

KDC は韓国図書館界で、韓国資料、東洋資料を含むすべての図書館資料に適用され、また韓国図書館界とそのユーザーのニーズに合わせ、同国の書誌的特性や国内図書館が所蔵する文献価値を反映するための特定システムとして使用されるべきものに進展した。

##### 4.1 基本構造と類（メインクラス）

KDC は DDC の基本構造に立脚しており、他のメジャーな分類システムを参照しつつ、これに韓国の書誌的特性を加えている。それゆえその名「十進分類法」が示すように、DDC や他の十進分類法システムが持つ特性を有している。十進記号法に基づき、拡張された 000 から 999 の数字全表と、相関索引を持っている。その記号法として、その階層構造、どのようにいくつかの大分野における助記性を表すためアラビア数字を用いている。その結果、多くのメリットと改良型十進分類法システムゆえの限界を有している。

韓国の書誌的特性に対処し、一方、DDC の欠点への不満を反映しようと、その委員会メンバーは、表 4 にまとめたように、KDCP、LCC [アメリカ議会図書館分類表]、UDC [国際十進分類法]、日本十進分類法 (Nippon Decimal Classification : NDC)、その他の内外の先行関係システムの見解をとり入れるよう試みた。東洋、韓国に特に関係する類、綱、目のいくつかは NDC と KDCP のそれに基づいて拡張されている。例をあげると、クラス 300 部門 (社会科学) は一般の構造及び LCC の拡大型に、医学部門の多くは UDC のそれに基づいている。理論的に、KDC は基本構造と下位構造に多種のシステムの長所を集めている<sup>3)</sup>。

参照した分類法	KDC が参照の分類法から影響を受けた分野とクラス
DDC	全般構造とシステム上の多数の類
LCC	社会科学 (300)における多くの綱
UDC	医科学 (510)における多くの目
KDCP	韓国や東洋に関係する綱・目
NDC	日本と東洋の主題に関係した綱・目・

表 4 KDC 上に見る、他のメジャーな分類表の影響

原則として、KDC は DDC と同様に組織だて分類構造を維持している<sup>4)</sup>。KDC 第 5 版の序言は、類＝メインクラスの配列は、ベーコンによる知識の分類における歴史、詩、哲学の三幅対のベーコンが施した逆配列順を基盤としている (Comaromi 1976a, 21)。だが KDC は、件名分類法 (SC) のように変更し連携させている。第 5 版の例では、多様な宗教は“宗教音楽” (672) の下に、“造園” (525.9) は農業 (520) の分枝とした。

KDC におけるメインクラスの配置とその順序は、言語類の文学類の近くへ移し換えたのを除き、DDC のそれとほぼ同じと言える。

すなわち、KDC 内の類 (メインクラス) の順序は、表 5 のとおりであるが、自然科学、技術、芸術、言語は DDC それと異なっている。さらに、綱 (次位クラス) と、それに続く分枝の配列は、多くの類において、DDC のそれらの分野とは異なっている。

KDC	類記号	DDC
総記	000	コンピュータ科学、情報科学、総記
哲学	100	哲学, 心理学
宗教	200	宗教
社会科学	300	社会科学
自然科学	400	言語
技術	500	自然科学
芸術	600	技術
言語	700	芸術、宗教
文学	800	文学
歴史	900	歴史、地理

表5 KDCとDDCのメインクラス(類)の比較表

出典: Oh, Dong-Geun [ & etc. ] (2009) *Understanding Korean Decimal Classification 5th edition*, Daegu : Taeil Press 内の表から翻案。

#### 4.2 補助表

KDCは下記の8個の補助助記表を持っている。

- ①一般補助表
- ②地理区分
- ③韓国地理区分
- ④韓国歴史区分
- ⑤言語区分
- ⑥固有言語の補助区分
- ⑦固有文学の補助区分
- ⑧固有宗教の補助区分

表とその補助区分は、固有宗教における補助区分のケースを除き、DDCのそれに類似しているが、いくつかのマイナーな翻案と拡張は韓国の書誌的特性が加わった結果である。KDCの、DDCとの相異、大きな特徴は下記のとおりである。

- 1) 一般補助表内の記号 04 は講義、随筆、講演に使用され、記号 -08 は叢書、全集、選集に使用される。この表は DDC のそれよりも小幅で簡略である。
- 2) 地理区分の記号の多くは、表 6 に見るように DDC のそれと異なって使用される。それは韓国のローカル面の強調を、ごく自然にまず反映したものである。
- 3) 韓国の地理区分、歴史年代区分の二つの表は、分離した表ではなく、それぞれに、地理エリアを-111 から-1199 というように、歴史の総表において 911.01 から.082 にわたるように分けることを指示するものである。
- 4) 言語表に関する記号は、地理エリアのそれと相似するよう助記性を有している。結論的に言えば、更に KDC の言語類 (700)、文学類 (800)、歴史類 (900) における分枝は、表 7 に見るように、それぞれのあいだで、助記性をもっており、この特性は地理 (980)、伝記 (990) の分枝にも適用される。KDC において、スペイン [地理・歴史] とスペイン語・スペイン文学は、イタリー [地理・歴史] とイタリア語・イタリア文学に先行し、韓国図書館におけ

る文献的秩序を反映している。DDCのそれに代えて用いたこの配列順は、言語使用の人口割合から見て、韓国図書館において意義の深い選択である (Oh [ & etc.] 2008, 143)。

- 5) KDCにおける固有言語の分枝関係の記号法は、表8に見る通り、DDCよりもNDCのそれに似ている。しかし特殊言語における列挙順序とKDCにおけるこの表の使用法は、DDCにおけるそれにほぼ同様である。
- 6) KDCにおける固有文学の分枝関係の記号法は、-8をルポルタージュや雑集に用いる以外は、DDC表3Bとほとんど同じである。KDCにおける固有文学内の列挙順序とその表の使用法は、DDCにおけるそれと酷似している。

KDC	記号	DDC
アジア	-1	アジア、地域、地方は一般的扱い。海洋も。
韓国	-11	亜熱帯に
中国	-12	温帯に
日本	-13	熱帯に
ヨーロッパ	-2	主要なものに位置づける
アフリカ	-3	古代世界に入れる
北アメリカ	-4	ヨーロッパに入れる
南アメリカ	-5	アジアに入れる
オセアニア	-6	アフリカに入れる
北極	-7	北アメリカに入れる
大洋	-8	南アメリカに入れる
	-9	その他地域、地球外の地域

表6 KDCとDDCにおけるアジアに対する記号、比較表

補助区分内綱目				
地理区分	言語区分	言語 (700)	文学 (800)	歴史 (900)
-11 韓国	-1 韓国語	710 韓国語	810 韓国文学	911 韓国史
-12 日本	-2 日本語	720 日本語	820 日本文学	912 日本史
-13 中国	-3 中国語	730 中国語	830 中国文学	913 中国史
-24 イギリス	-4 英語	740 英語	840 英文学	924 英国史
-25 ドイツ	-5 ドイツ語	750 ドイツ語	850 ドイツ文学	925 ドイツ史
-26 フランス	-6 フランス語	760 フランス語	860 フランス文学	926 フランス史
-27 スペイン	-7 スペイン語	770 スペイン語	870 スペイン文学	927 スペイン史
-2S イタリア	-8 イタリア語	780 I イタリア語	880 イタリア文学	928 イタリア史

表7 KDCにおける地理区分、言語区分、歴史類、言語類、文学類の間の助記<sup>5)</sup>

出典 Oh, Dong Geun, [ & etc.] (2009). *Understanding Korean, Decmal Classification, 5th Edition*. Daegu: Taeil Press, p.101 and 303の図を参照し、修正を施した。

言語分枝	KDC	NDC	DDC
-1	音声、音韻、文字	音声、音韻、文字	綴り字法、音韻、音声
-2	語源語義	語源、語義	語源
-3	辞典	辞典	辞典
-4	語彙論	語彙論	[不使用]
-5	文法	文法	文法、シンタックス [文章論]
-6	作文	作文	[不使用]
-7	読本、解釈、会話	読本、解釈、会話	歴史的・地理的変化, 近代の非地理的変化
-8	方言	方言	言語の標準的用法; 応用言語学

表 8 KDC, NDC, DDC 内の固有言語の分枝表 言語共通区分

#### 4.3 固有宗教における分枝

KDC における固有宗教の分枝はユニークである。韓国では、仏教、プロテスタント、カトリックその他の様々な宗教が、自然体で共存しているから、図書館は、これら多様な宗教に関して分類し、整理しなければならない(Oh & Yeo 2001, 76-77)。一つの宗教が卓越状態にある他の国、地域と異なるこうした状況に対応するため、KDC は分類記号 220-280 という宗教類の分枝として下記の表 9 に見るように 6 枠に大宗教を配置した。アジアに起源を有する 4 つ、仏教、インドのヒンディ教、中国の道教、韓国の天道教を含んでいる。

KDC 5	網目(記号)	DDC 22
宗教	200	宗教
比較宗教学	210	宗教哲学、宗教理論
仏教経典	220	聖書
キリスト教	230	キリスト教、キリスト教神学
道教	240	クリスチャン・モラル、祈りの神学
天道教	250	信徒の序列、ローカル教会
[分類網目配当なし] <sup>6)</sup>	260	社会的及び教会的な神学
ヒンディ教, バラモン教	270	キリスト教、キリスト教会の歴史
イスラム、モハメド教	280	キリスト教宗派とセクト
その他の宗教	290	その他の宗教

表 9 KDC 第 5 版, DDC 第 22 版の宗教類 (2 類) 内の分枝の比較表

記号	助記的特徴	例 (22 仏教) <sup>7)</sup>
-1	宗教原理	221 仏教理論
-2	教祖;リーダー	222 仏陀
-3	典拠、聖典	223 経典
-4	宗教的人生、その実行	224 信仰録、信仰生活
-5	伝道、宗教教育	225 布教活動
-6	宗教組織	226 寺院
-7	公開礼拝	227 仏会
-8	宗派と宗門	228 各宗

表 10 KDC 内の固有宗教における宗教共通区分 ; 220 の下における接合例<sup>1)</sup>

## 5 KDC 第 5 版の新しさは、どこか

先述したように、KDC の 2 分冊からなる第 5 版は 2009 年に発行された。元の 4 版が発行されてのち 13 年が経過していた。第 1 巻は、総表 1,004 ページであり、序説部分 (30 ページ)、序言 (12 ページ)、補助表 (39 ページ)、摘要 (12 ページ) と分類細目表を含む。第 2 巻は相関索引で、525 ページからなる。

分類委員会は、第 5 版への改訂作業を開始した際に四つのガイドラインを、第 4 版 (韓国図書館協会, 2009, p.vii) のそれに代えて用意した。それは非常に有用なものとなった。なぜなら、この改訂作業は 10 人の委員で分担されたからである。これらのガイドラインから、同版の特徴の幾つかを取り出し、下記に示す (KLA, 2008))。

- 1) ガイダンスの一つは、メインクラス [類]、ディビジョン [綱]、セクション [目] を含む、細目表の基本的構造が、維持されるべきということである。部分的に特別な処理の調整を要するような例外を除き、[分類] 委員会はこれらのクラスの配列調整を最小限にするよう心がけた。修正をほどこしたクラスの数例は下記のものである。(a) 一般科学、000 の下に集めた ; (b) 形而上学 (110) と認識論 ; (c) 行政機関 (350) 、法律 (360) 、経営 (325) ; (d) 韓国音楽その他の伝統音楽 (679) ; (e) 韓国主題に関係したほとんどすべてのクラス ; (f) 近來の北朝鮮の地理名称。
- 2) 細目表と相関索引は、常用の朝鮮文字ハングルでのみ表し、漢字表記はしていない。これは、ハングル文字を用いずに漢字を主用した多くの見出しや注記を含んでいた第 4 版と異なる点である。第 5 版において、漢字は同意語や専門語を識別するためにのみカッコに入れて付記されている。韓国の若年層の図書館員や利用者は漢字の読み書きに苦闘しているので、第 5 版がとった処置は、有効でリーズナブルと言える。
- 3) 地域表をはじめ、助記表の幾つかは、第 4 版以降、出版物の最近の変貌を反映するため、膨張、調節、再修正が加えられている。海洋区分記号はこの版で加わった。
- 4) 中国人、日本人に関係する個人名や地名などの固有名は、それぞれ自体における発音を基盤に韓国文字であらわし、漢字表示をカッコに入れて補っている。ただし、1910 年以前の名は、KDC 第 4 版にならって、漢字の韓国発音をもって表している。

上記に記した特徴に加えて KDC 第 5 版のドラフトは、図書館界内の多くの公聴会を通して品質向上してきた。韓国図書館協会は、継続的に、館界からの勧告や批評を求めて来た。その分類

委員会は、それらを最終バージョンのドラフトまで、第5版に反映しようとして来た。

この新版の他の重要な特徴は、KDC 第5版のための作業に多様な分野から20名を超える人々が参加したことである。特に、技術(500)、コンピュータ科学、芸術(600)クラスは、土木工学、コンピュータ科学、機械工学、建築工学、人間工学、韓国伝統音楽その他の主題専門家からの示唆やアイデアに基づいて再編、拡張された。

## 6 将来の発展に対する示唆と所感

韓国十進分類法は2014年内に50周年記念を迎える。その発展への多くの示唆は、KDC 韓国図書館界で今持っている人気を、将来も継続維持することに寄与するだろう。このシステムが対象とする利用層は明示的でない。KDCは現在、1600万点を超える資料を有する大学図書館(たとえば、YOUNG NAM [嶺南] 大学校)から、最小限の蔵書しかもたない寒村の小公共図書館まで、多様な図書館で使用されている。そこで、そのコアのユーザーを識別し、焦点を合わせ、そうした層のもつニーズをより強く反映することが望ましい。例えば、もし必要ならば、小公共図書館や学校図書館むけの縮小版が考えられるかもしれない。

KDCのウェブ版はまだ開発されていない。多くの韓国図書館は図書館オートメーション化に多様なツールを導入して来た。図書館員たちの多くは、そうしたツールのオンラインバージョン化に非常に慣れている。彼らはオンラインデリバリーに関するニュースを聞いたがっていない。したがって、KDCのウェブ版の実現はタイムリーであろう。

分類システムの拡張版そのもの、また標準的な綱目その他を含め表の適用には、多くの未解決の問題が残っている。図書館界内外からの示唆や批判を、常に進化する知識の吸収を図りつつ反映するという継続的な営為が必要である。

KDCに関係する作業の全般と操作に関し、排他的で完全に責任を有する人は誰もいない。KDCは韓国図書館協会の分類委員会メンバーの共同的、集中的な努力によって進展し、同協会によって出版されて来た。そこで、この委員会の上級常任メンバーとして従事できる一人の可能な人をこの協会から指名したら、この人はよりよく連携機能を果たすと考える。この人は、同時にKDC、KCR [Korean Cataloging Rules : 韓国目録規則] などのようなKLAが管理している標準書誌ツールに関するすべての業務を調整することができることが望ましい。この人は、そのシステムに結び付けるために、図書館界から、継続的に推薦や提案を受け取ることを基本に、KDCに関するすべての問題を処理し、支える職能を持つものとする。

様々な分野の専門家の協力的参加が、関係分野のクラスの拡張、再編、改良のために殊更に有用であることがKDC第5版の改訂作業を通じて証明された。そこで次なる改訂における参加者として、[第5版改訂の折りに得た] 主題エリア以外から、新しく主題専門家が招来されるよう推奨する。

韓国国立図書館の協力の労は、KDCの質的向上のために不可欠である。それは、KDCの広範囲にわたる用語(その変更)や、KDCを使用する図書館員の教育・研修、その普及その他に関して不可欠のものである。韓国国立図書館は韓国図書館法において、韓国の中央図書館と規定されている。その主たる働きは、全国書誌の編纂と標準化、国内の他の図書館への支援、協力にある。同図書館は5400万部以上の東洋語による蔵書を所蔵しているが、そのほとんどがKDCによって分類されている(所蔵する約1000部の洋書はDDCで分類されている)。またKORMARCレコードを、韓国の書誌基準のための国家機関としてCIPデータ同様に作成し、そこにはDCナンバーを記録している。この図書館は、図書館員用に、KDCに関する概論、演習の、1週間のオフライン トレーニング コースとオンライン研修コースの二つ有している。国立図書館の協力の重要性を考える。KLAは、[KDC]第3版の改訂のとき以来、分類委員会のメンバーとして、同図書館のスタッフを指名し続けているのである。さらに大きな協力的な冒険が、図書館界に膨

大な便益をもたらす。

こうしたシステムをプロモートする組織的な努力が必要である。これらは研究に係る奨励に繋ぐことができる。ウェブサイトの構築と使用。オンライン、オフライン両方による多様なユーザー ガイドまたはマニュアル、個人指導書などの教育資源の開発。一般的な分類の理論や、特に KDC に関するような実習についてのワークショップの開催。このシステムについて多様な意見や示唆を収集できる図書館界内外のコミュニケーション チャンネルの構築及び拡充。これに関して DDC システムを促進させようとする OCLC の努力は、ベンチマーク（規範）として非常に有用なものである。

将来、改訂は定期的な間隔で行われるべきである。先の版にあったような、改訂版発行の遅れは、使用者の不満足と苦情を呼ぶ結果となっており、DDC など他のシステムと比較して必然的な賞味期限切れの状態は、KDC から他のシステムへの切り替えを検討するに至らせる可能性をもつ。

韓国十進分類法は一国の図書館群によって使用され続けてきた、数少ない、国レベルの一つの分類システムである。それは、国の図書館協会（韓国図書館協会）によって維持され、改善されており、国の中央図書館（韓国国立図書館）で使用されている。付言するならば、非常に多くの国内資料が流通している。“韓国の出版者は、2009 年だけに限っても 4 万 2000 以上のニュータイトルで、1062 万冊以上の新刊書（コピー）を生産している（韓国出版者協会 2010）。

さて今後、総合的に世界規模の統合化が進む時期が来ると、巨大な国際的な書誌ツールが他の国の書誌ツールに影響を与え続けるようになるであろう。MARC21 フォーマット（Library of Congress 2010）<sup>8)</sup>、スウェーデン国立図書館（Svanberg 2009）の例に見るように、自国独自のシステムを廃する方向に傾き、国際的なシステムに切り替える国が徐々に増えている。ある国にとっては国際的なシステムを使用することは、自国のシステムの維持に多くの困難を処理しなければならない状況を昇華するための、手っ取り早くよりよい一つの判断となるのではなかろうか<sup>9)</sup>。

## 注

- 1) KDCP の概括的な特徴は、Oh, Dong-Geun (2000, 9-19), Won, Jong Lin (2000, 29-83), Kim, Jin-Su (2000, 263-311), および Nam, Tao-Woo (2000, 313-336)によって、明確に分析され、まとめられている。
- 2) 最近の韓国の KDC の使用法について、国立機関による広範囲な調査を通して、定期的に集められた正確なデータはない。一部の研究者または機関が自身らの目的のために集めたデータが使えただけである。表 2 と表 3 は、以下の材料やホームページに記載されているデータの分析から取得した。
  - (1) Korean Educational Development Institute (KEDI;1987) p.62
  - (2) Statistics received through personal communication from Korean Library Association in Dec. 1, 2010. この統計は、2010 年 12 月 1 日に韓国図書館協会からの個人的なコミュニケーションを介して受信した。
  - (3) Council on National College & University Libraries (2001), p.91, およびそのホームページ (<<http://www.knu-la.or.kr/index.php>>);
  - (4) 韓国私立大学図書館協会 (<<http://www.kpula.or.kr/index.php>>) のホームページ。韓国では公共図書館と大学図書館の新設が続いたので、調査・分析対象の図書館の数は増加した。データの一部は、Oh, Bae & Yeo (2002 そして/あるいは 2009) にも掲載された。
- 3) この事に関して、書誌システムが国民性を反映するという考えに、強く同意する。

韓国の文化のタイプを「チゲが、調理食材やソースの様々な種類を使用するスープやシチューを総称する多くの異なる種類がある。しかし、それはコチュジャン [韓国味噌]、テンジャ

ン [固い醬]、ガンジャまたはセウジョッを添えられるブイヨンで肉、シーフードまたは野菜で典型的に作られる。」(“Jigae” Wikipedia 2010年9月17日) ように、「チゲ文化」と呼ぶ。それで、KDCは一種の「チゲ分類体系」と呼ばれる。類似のことは、KORMARCに適用される韓国の機械可読目録は‘チゲMARC’と呼ばれた。それがチゲのように多種の成分からなるからでなく、成分を活かして処理されるからである。チゲは韓国の非常に人気の料理である。私は、我々のKDCがチゲと同じくらいよい一種のよく料理されたものと考えられていることができることを心から望む。

- 4) Bacon と Harris からその影響を受けた DDC の起源は Comaromi (1976b)、Wlegand (1998)、Miksa (1999) などによっても分析された。
- 5) この表の見出しは、簡略表ゆえに簡略化している。そのため、KDC の総表と表の見出しが異なることがある。例えば、KDC のテーブルに 24 の見出しは「イギリスのグレート・ブリテンおよびアイルランド」としてされている。[この論文の当表では「イギリス」]
- 6) 第 4 版まで 260 に位置していた、神道は、韓国文学上の根拠を反映して 291.3 に移転した。
- 7) これらのセクションが韓国の図書館の主要なものであるので、個々の宗教の細分から総合される仏教のこれらの部分のための表記法は、実際、列挙されて、KDC 5 さらに再分割される。
- 8) たとえば、カナダやイギリスは、それら自体の MARC フォーマットを開発し維持したが、今はこれらのフォーマットをやめて、MARC21 フォーマットに加入している。そしてこれらの国の国立図書館、文書館、Library and Archives Canada と British Library は Library of Congress と共に MARC21 フォーマットの維持管理機関として機能している。
- 9) インドで多くの図書館を訪問したとき、インドの図書館コミュニティでさえコロン分類法の減少している状況を聞かされ、私は自分自身でそのことを確認した。そこには多様に理由があるかもしれない、しかし、その改訂に関連した若干の困難に起因する新版の出版の遅れは主要な理由の一つである場合がある。私は、この状況が韓国で 1950 年代の KDCP の経験と非常に類似していると考え。そして、これらの例からわかるように、人的資源が制限されたある種国家システムに関与する個人的委員会に拠って経験した困難な経験に基づく観点から、独立したシステムとしてそれらを改訂し、維持するために動く組織が必要との思いを抱く。

## 文献

- Anyanwu, Virginia. 1994. Toward a national classification scheme for Nigerian official publications. *Journal of government information* 21: 129-138.
- Chung, Yeon-Kyoung. 2007. National bibliographies: past, present and future - Korean experience *IFLA Journal* 33: 220-228.
- Comaromi, John P. 1976a. The historical development of the Dewey Decimal Classification system. In Henderson, Kathryn Luther ed., *Major classification systems, the Dewey centennial*. Urbana Champaign, Ill.: University of Illinois, Graduate School of Library Science, pp. 17-31.
- Comaromi, John P. 1976b *The eighteen editions of the Dewey Decimal Classification*. Albany, NY: Forest Press.
- Comaromi, John P. and Satija, Mohinder Partap. 1985. History of the Indianization of the Dewey Decimal Classification. *Libri* 35: 120.
- Council on National College & University Libraries of Korea. 2001. *Bulletin national college and university libraries*, 19.
- Council on National College & University Libraries. 2010. Homepage. Available <http://www.knula.or.kr/index.php>. (Accessed Dec. 02, 2010).
- Kim, Ja-Hu. 2009. Suggestions on the 5th edition of the Korean Decimal Classification. *Journal of Korean*

- Library and Information Science Society* 40 no.2: 5-26.
- Kim, Jin-Su. 2000. A study on the KDCP In Oh, Dong-Geun ed., *The Life and thought of a librarian Bong-Suk Park*. Daegu: Tacit Press, pp. 263-311.
- Kim, Yeon Rye. 2009. A comparative study on the KDC, NDC, and DDC classification system for civil engineering. *Journal of the Korean Biblia Society for Library and Information Science* 20: 219-32.
- Koh, Jae-Chang, ed. 1954. *Han-Un Decimal Classification*. Seoul: The Bank of Korea.
- Korea Institute for Defense Analyses, ed. 1958. *Kuk-Yeon Dectmal Classification*. Seoul: Korea Institute for Defense Analyses.
- Korean Educational Development Institute (KEDI) 1987. *A study for the establishment and activation of library system*. Seoul: The Institute.
- Korean Library Association. 2008. *Proceedings of the Open Hearings for Korean Decimal Classification, 5th Ed*. Seoul: KLA.
- Korean Library Association. 2009. *Korean Deamal Classification*. 5th Ed. Seoul: KLA.
- Korean Private University Libraries Association. 2010. Homepage (<<http://www.kpula.or.kr/index.php>>). (Accessed Dec. 02, 2010).
- Korean Publishers Association. 2010. Publication statistics 2010. <[http://www.kpa21.or.kr/bbs/board.php?bo\\_table=d\\_total&wr\\_id=103](http://www.kpa21.or.kr/bbs/board.php?bo_table=d_total&wr_id=103)>. (Accessed Nov. 10, 2010)
- Kwak, Chu-Wan. 2009. A study of revision of the history class (900) for the KDC 6th edition. *Journal of the Korean Bibiia Society for Library and Information Science* 20n3: 149-161.
- Lee, Yong-Jae, and Jo, Jae-Soon. 2006. The modern history of the library movement and reading campaign in Korea. *Paper presented at IFLA Conference, 2024 August 2006, Seoul Korea*
- Library of Congress. 2010. MARC development overview Available <http://www.loc.gov/marc/overview.html>. (Accessed Dec. 15, 2010)
- Miksa, Francis L. 1998. *The DDC, the universe of knowledge, and the postmodern library*. Albany, NY: Forest Press.
- Nam, Tao-Woo. 2000. Classification theory of Bong-Suk Park, In Oh, Dong-Geun ed., *The life and thought of a librarian BongSuk Park*. Daegu: Taeil Press, pp. 313-336.
- Oh, Dong-Geun. 1992. KORMARC: its characteristics and influence on the library automation in Korea *International Information & Library Review* 24: 341-352.
- Oh, Dong-Geun. 1995. Comparative analysis of MARC in Korea, Taiwan and Japan. *Program Electronic Library and Information Systems* 29: 123-134.
- Oh, Dong-Geun. 2000. Pioneer of Korean library community; Bong-Suk Park. In Oh, Dong-Geun ed., *The Life and thought of a librarian Bong-Suk Rark*. Dægu: Tacit Press, pp. 9-19.
- Oh, Dong-Geun, and Yeo, Ji-Suk. 2001. Suggesting an option for DDC class religion (200) for nations in which religious diversity predominates. *Knowledge Organization* 28: 75-84.
- Oh, Dong-Geun, Bae, Young-Hwa1, and Yeo, Ji-Suk. 2002. *Understanding Korean Decimal Classification*. Daegu: Tacit Press.
- Oh, Dong-Geun, Bae, Young-Hwa1, and Yeo, Ji-Suk. 2008. Suggestions for the classes language and literature of the 4th edition of Korean Decimal Classification. *Jonnral of the Korean Society for Library and Information Science* 42 n3: 141-157.
- Oh, Dong-Geun, Bae, YoungHwa1, and Yeo, Ji-Suk. 2009. *Understanding Korean, Decimal Classification, 5tb Edition*. Daegu: Taeil Press.
- Park, BongSuk, Ed. 1947. *Korean Dectmal Classification (KDCP)*. Seoul: The National Library of Korea.
- Svanberg, Magdalena. 2009. Dewey in Sweden: leaving SAB after 87 years. Paper presented at *Looking at the Past and Preparing for the Future, on IFLA satellite preconference sponsored by the Classification and Indexing Section, 2021 August 2009, Florence, Italy*.
- Wiegand, Wayne A. 1998. The "Amherst Method" : the origins of the Dewey Decimal Classification scheme. *Libraries and Culture* 33: 175-194.
- Wikipedia. 2010. Jjigae. Available <http://en.wikipedia.org/wiki/Jjigae>. (Accessed September 17, 2010).
- Won, Jong-Lin. 2000. A study on the thought on the library of Bong-Suk Park. In Oh, Dong-Geun ed., *The life and thought of a librarian Bong-Suk Park*. Daegu: Tacit Press, pp. 2983.
- Yeo, Ji-Suk. 2006. A study on the Korean Library Classification in the Japanese occupation in Korea. Doctoral dissertation, Keimyung University; Korea.
- Yeo, Ji-Suk, Lee, Joon-Man, and Oh, Dong-Geun. 2008. The improvements of the subject chemical

engineering in the 4th edition of Korean Decimal Classification. Journal of Korean Library and Information Science Society 39 n2: 249-266.

Yeo, Ji-Suk et al. 2008. The improvements of the subject computer science in the 4th edition of Korean Decimal Classification. Journal of Korean Library and Information Science Society 39 n3: 345-368.

Zhang, Wenxian. 2003. Classification for Chinese libraries (CCL): histories, accomplishments, problems and its comparisons. Journal of Educational Media and Library Sciences 41 n1: 1-22.

#### 訳者付記

韓国では著作権法が厳しく、KDC6版の一部あるいはKLA分類委員会の報告などを安易に和訳することも出来かねる状態である。そこでKDC6版の分類委員長、Dong-Guen Oh啓明大学校教授のこの論文をもってKDCの通史、6版についての事実上の予見をしてもらおうとしたものである。年月的に見れば新しいものではないが、これを訳する以外に現在手が見つからなかった。翻訳に関しては、著者を通じてKnowledge OrganizationのEditorial office, Dr. Richard P. Smiraglia (editor in chief) および発行元ドイツErgon-Verlagから翻訳承諾を取得している。また、同氏と綿密な打ち合わせの労を孫誌術博士（大手前大学）にとっていただいた。ご協力に感謝したい。

なお訳出上、原論文の表の一部において、枠取りなどを、原著者の意向に沿って是正している。

(おー どんぐえん 啓明大学校：韓国)

(しほた つとむ LISSASPAC 日本支部)

(やね じゅんいち 奈良大学)

(そん じひょん 大手前大学)

(2016年10月5日受付)

(2016年10月27日受理)